

平成29年度 学校評価総括表

奈良県立香芝高等学校

教育目標		日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性をそなえた生徒の育成を目指す。				総合評価
運営方針		校訓(『和敬』『創造』『錬磨』)の精神に基づき、生徒の学ぶ意欲を高め、魅力と活力ある学校作りをめざす。				
平成28年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的方策		
授業改善のために、研究授業の実施とともにシラバスの改善に努めた。さらに、観点別評価の研究に取り組み、授業のあり方について点検を進めたい。登校指導などを通して、挨拶などのマナー向上がみられる。地域連携を推進し、社会の一員であることを自覚させることによって規範意識の向上を目指したい。		生徒の主体的な活動を引き出し、意欲と活力のあふれた高校生活を送らせる。		学校行事等において生徒の主体的な活動の場を設定し、活動を支援することによって生徒の成功体験の機会を増やす。		B
		基礎的な知識・技能の定着とともに、言語活動の充実により思考力・判断力・表現力を育成する。		勤労観・職業観を育成し、自らのあり方や生き方を設計できるようにキャリア教育を推進する。		
		人権尊重の精神を尊重し、他者を思いやる心を身につけさせるとともに、規範意識を向上させ、社会の一員としての自覚を促す。		指導に生かす評価のあり方や授業改善の研究を進める。		
		たくましい心身の育成のために、運動に主体的に取り組む姿勢と自らの健康の保持増進への実践力を養う。		外部講師の招聘や研修会への参加を推奨し、授業研究を推進する。		
				挨拶運動など地域活動への参加を推進し、社会の一員としての自覚と規範意識の向上を目指す。		
				教育活動全体を通して、人権意識の向上を目指すとともに、教育相談体制を充実させる。		
				授業や学校行事等を通して健康の大切さを理解させるとともに、体力の向上をはかる。		
				主体的かつ継続的に運動に親しみ、心身を鍛えるために、部活動への参加を推進する。		
	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	観点別評価規準表の作成と思考力・判断力・表現力を高めるための授業改善	観点別評価規準表(ルーブリック・シート)を作成し、各観点毎の評価方法を見直すとともに、指導と評価の一体化を目指す。また、新テストに対応することができる思考力・判断力・表現力を身に付けさせるため、学力の三要素を踏まえた授業の展開を目指す。	A	次年度からシラバスに観点別評価規準表を明記するため、全科目で作成し成績処理シートも作成しており、次年度以降、試行を繰り返し、評価の精度を高めていく。思考力・判断力・表現力を付ける授業の展開は引き続き研修を行っていく。	観点別評価を試行し、問題点を共有する。各教科における授業研究を行い、授業の質を高める。	〈学校評議員の主な意見〉 ○進路指導等について ・大学入試改革に対応し、先生方の研修も深めながら、具体的な目標を掲げ、学校全体として進路実現に向けて取り組んでもらいたい。 ・様々な進路希望があるが、まずは普通科としての基礎的な学力をつけることが大切である。 ・将来の生き方を見据えた視点での進路指導が大事である。 ・学力をつけるため高校に来たという押さえが大事である。
生徒指導	社会的マナーの定着	学校生活及び通学時において、制服の着こなし指導を徹底する。全ての教職員が同じ目線で生徒を見守り、必要に応じて生徒に着こなしの大切さを理解させるように努める。朝、校門で自発的に挨拶ができる生徒100%を目指す。	B	地域の方や学校に来校された方から制服の着こなしが非常によく清楚な感じを受けると評価されている。今後も継続していきたい。挨拶ができない生徒が多いように感じる。また交通ルールやマナーの指導も課題である。	生徒会と連携を図り、自発的に挨拶ができる取り組みを考え、積極的な声かけを行う。交通ルールやマナーについては継続的に啓発を行う。	○生徒たちの様子について ・「元気いっぱい 一歩前へ」というスローガンを掲げられ、昨年の意見が生かされ、明るく前向きに学校生活を送っている生徒が多い。 ・挨拶してくれる生徒が多くなっているので、さらに社会人のマナーとして自発的に挨拶できる生徒を、地域・小中学校とも連携しながら育てていきたい。 ・コミュニケーション力、判断力や表現力などの総合的な力を養うことが大切である。
進路指導	希望する進路の実現	1年次から自己発見・進路探究の学習活動を通して、具体的な進路目標を設定させることにより、主体的に学習に取り組みさせ、部活動との両立を図りつつ、希望進路実現の努力を促す。	B	各学年ともに進路に対する意識は高まっているが、その実現に向けての勉強量が1・2年生ともに少ない。3年生はよくがんばってはいるが、勉強の開始時期が遅かった。	進路目標を達成するため、学習時間を確保するよう促す。	○地域との交流について ・自治会の夏祭りに生徒会、ボランティア部、バトン部等が参加していただき、掃除のお手伝いも小・中・高校で協力していただくなど、大変好評である。また、町内の清掃活動にも積極的に取り組んでいただき、感謝している。 ・保育体験、小学校との交流も、地域としていい接点となっている。
総務	式・式典の円滑な運営と広報活動の充実	式・式典やオープンキャンパスの円滑な運営を各分掌、学年と連携し、広報活動の充実に努める。	B	式やオープンキャンパスについては計画通り実施できた。入学のしおりの作成方法やホームページの新CMSへの移行が今後の課題である。	入学のしおりの作成方法は再考する必要がある。新CMSは専門的であり研究が必要。	○その他 ・3年間、勉学にクラブ活動に頑張り、卒業後もそれぞれの道で頑張っていることを聞いている。 ・成功体験だけでなく、失敗体験も経験しながら大人になってほしい。
渉外環境	美化委員会活動の活性化	美化委員による、月1回の通学路清掃および11月の校門前の落葉清掃で自主性を育て、委員会活動への参加意識を高める。	B	月1回の通学路清掃や11月の校門前の落葉清掃をクラス担任の協力のもと実施した。生徒の委員の自主性の育成が課題である。	様々な学習活動の場で、環境美化への意識と行動を促す。	
人権教育	自主活動の一層の充実	ハートフルクラブと生徒会人権委員会を本校自主活動の車の両輪と位置づけ、西和養護学校との交流や人権集会等の活動において、生徒が主体的に取り組むことで、これらの活動を推進役として生徒全体の人権意識の向上につなげる。	B	ハートフルクラブと生徒会人権委員会が連携・協力し合いながら、人権集会や西和養護学校との交流会、文化祭展示などに取り組んだ。ただ、生徒全体の人権意識の向上につなげるまでには十分至っていない。	従来の取り組みをそのまま生徒全体に広げることが難しいので、広報誌などの活用方法をより充実させる。	
保健体育	集団行動の意義を理解し、実践するとともに、健康・安全に留意し、行動することができる生徒の育成	学校生活の中や社会生活の中でも集団で行動する機会が非常に多い。集団行動における基本的な動きと意味を理解させ、秩序正しく能率的に行うことができるよう指導する。また、けがや病気をしないために周囲に気配りしながら、行動できるように指導する。	A	毎授業での集団行動の指導が、学校全体あるいは学年単位で行動する全校集会・学年集会等において実践された。人に迷惑をかけること、速やかに生徒各自が自分の場所を特定し出席番号順に整列すること、香芝高校生としての自覚をもって校歌をしっかりと歌うことを今後の課題とした。	自ら進んで行動を起こすことがまだまだできない。学んだことや経験したことを生かし、周囲の状況をしっかりと把握して積極的に行動させるように指導する。	
文化図書	文化祭や文化行事への積極的な参加	文化祭における展示・発表等の質の向上を目指す。百人一首カルタ大会や朝の読書、図書館文化講座などの行事にも積極的な姿勢で臨ませるように働きかける。	B	文化祭展示にかける制作期間が短く、やや困難をきたした感があるが、舞台発表の創意工夫がよくされており、質の高いものであった。残念ながら文化講座への積極的な生徒の参加には至らなかった。カルタ大会実施後の決勝戦では接戦となり、文化的行事への関心は深まった。	展示についての書籍や情報を提供することで積極的な創作活動の手助けをする。また、生徒の興味関心を引き出せるよう文化講座の内容を厳選する。	
特別活動	生徒の自主的な活動の活性化	生徒会主催行事や、文化図書部との共催行事の文化祭を生徒がより主体的に行動し運営できることを目指す。そのために、生徒会生徒が中心となって生徒全体に情報を発信し、より多くの生徒が活動に積極的に参加するよう働きかける。	B	それぞれの行事において、生徒が主体的活動することができた。また文化祭は文化図書部と協力してスムーズに進めることができた。生徒の打ち合わせも定例会以外にも必要に応じた準備をすることができ、掲示板や放送、SNS等を通じた広報活動も行うことができた。	文化祭は来年度以降も文化図書部と連絡を密にして進めていく。生徒会活動へ興味を持つ生徒をより広く募っていき、執行部の人員を充実させていきたい。	
第1学年	基本的生活習慣の確立	時間の厳守、挨拶の励行、集団生活での規律の厳守などを働きかけ、安定した高校生活を持続できるようきめ細かい指導を行う。	A	学年全体としては、欠席が少なく遅刻する生徒も少ない。基本的生活習慣をほとんどの生徒が確立している。ただ、一部の生徒には集団生活での規律の厳守ができない者もいるが、指導には素直に従おうとする。	次年度は修学旅行を控えているので、ホームルームや授業等、様々な機会を通じて、集団生活で規律を守ることの大切さを理解させる。また、各自の進路の実現に向けて、人としての成長を促す。	
第2学年	第2学年としての自覚を持ち、責任ある行動をとることができる生徒の育成	学年集会やHR、授業などで、絶えず注意を喚起するなどしてきめ細かい指導を行なう。適切な言葉遣い、頭髮・服装、規律の順守できる、自律した学校生活を確立させる。	B	ほとんどの生徒が規律を守り、落ち着いた態度で学校生活を送ってきた。しかし、第2学年の後半になり、頭髮で校則違反の生徒が増えてきたので、改善を指導した。精神的に不安定になる生徒は昨年度より多くなり、カウンセリングの利用や、家庭訪問、学校での面談を繰り返し行った。	学校生活のあらゆる場面で、生徒の変化を観察し、統一した指導体制で対応する。	
第3学年	進路目標の達成	進路目標を高く持ち、普段から粘り強く勉強に取り組む習慣を身に付けさせる。また、面接時など、自分の考えや将来の展望を相手に伝えられる力を身に付けさせる。	B	推薦入試を最終目標にしている生徒も多かったが、一般入試まで受験勉強を続ける努力をした生徒も少なくなかった。自学自習の習慣を身につけ取り組んだ生徒は、実力を伸ばす努力を最後まで続けることができた。	次年度に向け、もう少し早くから計画的に取り組むよう指導、助言を行う。学年だけでなく、学校全体としての方策も検討し改善すべきことも必要であると思われる。	

(A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった)